

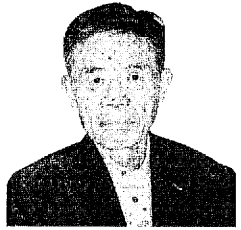
たけうち 竹内

ひろし 宏

(竹内経済工房主宰)

### 『エコノミストたちの栄光と挫折』

#### 路地裏の経済学 最終章



—— エコノミスト2500人が登場します。傾斜生産方式による戦後復興と、10年前の金融危機克服について、「政治家、学者、エコノミストが一体となつて乗り切った成功例」とあつたのが印象的でした。

■片山連立内閣の経済安定本部(安本)は戦時中に温存されたエリートを総動員し、海外からの引き揚げ組を加えた最高のメンバーでした。トップの和田博雄が45歳、稲葉秀三40歳、都留重入35歳、大来佐武郎32歳、その他メンバーの大部分は20代と、明治政府発足時のような若々しさでした。そのうえ、戦争協力者も共産主義者も復興目的のため一致協力したのですから、強力です。

過去2回のような総力戦が必要な時代です。

私は昔、左翼活動をしていましたので、そのころの人脈のおかげで敗戦直後の動きを知っているのです。

—— 長銀(日本長期信用銀行) 調査部を中心に半世紀以上もエコノミストとして活躍されました。「路地裏の経済学」の最終章とありましたが、もう終わりですか？

■小学校の同級生で私よりできた男が

## 立場の違い超え総力で危機克服の経験生かせ

10年前の金融危機克服も竹中平蔵、香西泰、奥田碩、牛尾治朗、本間正明の各氏らが立場の違いを超えて協力し、乗り切りました。時代遅れになつていた護送船団方式の司令塔だった大蔵省から内閣に司令塔を取り上げたのが最大の成果だつたと思います。今も

中学に進めず、町工場で働いた時代です。こうした人たちが日本の繁栄を支えている、と「路地裏」を書き続けました。しかし、コツコツ働き、長期的な「義理」の貸し借りを大切にすることが少なくなり、もう書くことがなくなりました。

—— 長銀破綻は社内エコノミストとして複雑な心境だつたでしょうね。

■貧しい時代に資金を集中配分する機関として生まれた長銀は企業自己資本が充実したとき、すでに役割を終えました。不動産バブル時代に不動産融資に深入りすぎて失敗しました。調査部では「このままでは破綻する」というレポートを書きましたが、無視されました。もう、方向転換できなかつたのです。私は蚊帳の外にいましたが、最後は寂しいものでした。

でも、「小型・満鉄調査部」と言われた長銀調査部は消滅した後も、優れた人材がさまざまな分野で活躍しています。著作を持つ元調査部員・元研究員は約100人、大学教授やシンクタンク研究員になつた人も50人近くいます。

—— 現在のアメリカ発金融危機をどう見ていますか？



東洋経済新報社 2100円

■アメリカは時価会計なので日本の危機のとき比べ、すごいスピードで不良債権が増えていきます。日本の住専処理の際、政治家が公的資金投入に反対しましたが、アメリカの政治家も同じです。可決が1週間遅れば不良資産は激増します。世界的な金融恐慌の恐れが現実味を帯びてきました。

(聞き手) 長田達治

毎日新聞紙面研究本部

## 新刊

### 「おもろい会社研究」

松室哲生著

日本経済新聞出版社、893円

大企業より、オーナー企業やベンチャー企業の社長インタビューのほうが面白い。その違いは「社長の顔が見える」からだ。確かに、泥臭い苦勞話は面白いのだが、それにとまらないのが本書。24時間営業で地域の再活性化に成功したすし店や、化粧品製造・販売を始めたテクノ機械メーカーなど、社長個人のユニークさが社業に体现されている16社を紹介する。

### 「強い円は日本の国益」

榎原英資著

東洋経済新報社、1680円

1ドル79円という超円高を記録した1995年、当時の大蔵省国際金融局長として、大規模な円売り・ドル買い介入を行つて、1ドル100円にまで押し戻したことで「ミスター円」の異名をとつた著者が、いま円高政策の必要性を説く。世界経済にパラダイムシフトが起き、製品安・資源高という価格革命が進行、これまでの「売るシステム」ではなく、「買うシステム」が求められているのだと。

### 「ケインズの闘い」

ジル・ドスタレル著

藤原書店、5880円

さまざまなケインズ伝が出ていますが、本書はケインズを経済学者としてよりも倫理探求家として描く。哲学者ムーアの影響の強かつたブルームスベリーのグループの活動から美、友情、恋愛のドラマを交え、生きた全体像に迫つた初の包括的評伝。約700頁の大著だが、一気に読み通せる。「ケイン